



Title	『ドイツ啓蒙主義研究』（1号～21号）掲載論文一覧
Author(s)	
Citation	ドイツ啓蒙主義研究. 2025, 22
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/102995
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『ドイツ啓蒙主義研究』（1号～21号）掲載論文一覧

第1号（2001年3月）

- 啓蒙とは何か（津田保夫）
 - 『ベルリン月報』誌上の議論を中心に —
- C.F.ブレーマーの詩学をめぐって（福田覚）
 - 模倣説の復権と新たな想像力概念の模索 —
- ケンペル『日本誌』と編者ドーム（中直一）
 - 「啓蒙」をめぐる議論を手がかりに —

第2号（2002年3月）

- 「フリードリヒの世紀」と自由（斉藤渉）
 - カント『啓蒙とは何か』とプロイセン一般ラント法 —（前編）
- ドイツ啓蒙主義における「人間の使命」の問題（津田保夫）
 - シュバルディングの『人間の使命』とその影響 —
- 社交術と「啓蒙」（中直一）
 - クニッゲ『人間交際術』にみられる处世と啓蒙の関係 —
- クリスティアン・ヴォルフの心理学における「想像力」（福田覚）

第3号（2003年4月）

- エルンスト・プラトナーの『医師と哲学者のための人間学』（津田保夫）
 - 後期啓蒙主義における新しい人間観とその学問の試み —
- 快感情の起源をめぐるJ.G.ズルツァーの考察（福田覚）
 - アカデミー論文（1751/52）についての覚え書き —
- 「フリードリヒの世紀」と自由（斉藤渉）
 - カント『啓蒙とは何か』とプロイセン一般ラント法 —（後編）

第4号（2004年5月）

- エルンスト・アントン・ニコライの想像力論について（福田覚）
- シラーの『生理学の哲学』における心身問題（津田保夫）
 - その中間力構想と神経精気論の思想的背景 —
- フリードリヒⅡ世における公正の観念と司法の独立（中直一）
 - アルノルト訴訟事件に関するドームの報告より —

第5号 (2005年5月)

ベルリン啓蒙主義における「水曜会」の存在について(1) (中直一)

— ビースターおよびニコライの文書より —

「知識人共和国」は何語で話すか (斉藤渉)

— プロイセンの啓蒙主義とフランス系入植者 — (前編)

ベルリンのズルツァー (福田覚)

— その生涯と活動の振幅をめぐる素描 —

第6号 (2006年5月)

ズルツァーの美学事典の体系性をめぐって (福田覚)

— 事典形式と理論的な体系性についての予備考察 —

ベルリン啓蒙主義における「水曜会」の存在について(2) (中直一)

— ニコライおよびクラインの文書より —

「知識人共和国」は何語で話すか (斉藤渉)

— プロイセンの啓蒙主義とフランス系入植者 — (後編)

第7号 (2007年5月)

ベルリン啓蒙主義における「水曜会」の存在について(3) (中直一)

— ゲッキングおよびグローナウの文書より —

陶冶の概念としての模倣 (福田覚)

— ドイツ詩学史の再記述と模倣の問題圏の拡大のために —

啓蒙主義者たちの大学廃止論 (斉藤渉)

第8号 (2008年5月)

ベルリン啓蒙主義における「水曜会」の存在について(4) (中直一)

— シュテルツェルおよびニコライ旧蔵の文書より —

連想と連関の概念としての模倣 (福田覚)

— ドイツ詩学史の再記述と模倣の問題圏の拡大のために —

「現在を軽蔑する権利がない」 (多賀健太郎)

— 啓蒙とダンディズム —

第9号 (2009年5月)

Logik als „Vernunftlehre“ (Sho Saito)

— Reimarus, Engel und W. v. Humboldt —

情動論から捉え返した詩学史記述の可能性 (福田覚)

— 初期啓蒙主義の「修辞学的」側面のその後を追うために —

ビュッシング『週報』誌におけるケンペル『日本誌』出版報道(前編) (中直一)

第10号 (2010年5月)

ビュッシング『週報』誌におけるケンペル『日本誌』出版報道(後編) (中直一)

フロイトの神経失調論に見る啓蒙と情動 (福田覚)

— 「文化的」性道德と現代の神経失調」を中心に —

教育の公事化 (斉藤渉)

— フリードリヒ2世の文教政策についての覚書 —

第11号 (2011年5月)

ドームによるケンペル『日本誌』の編集について(1) (中直一)

— 総説及び第1巻の分析(その1) —

ドイツ初期啓蒙主義の情動論をめぐって (福田覚)

— ヴォルフ、ウンツァー、マイアーが示す学際的な振幅 —

Zu den Quellen der phonetischen Umschrift

in Abel-Rémusat's *Éléments de la grammaire chinoise* (1822) (Sho Saito)

第12号 (2012年5月)

ドームによるケンペル『日本誌』の編集について(2) (中直一)

— 第1巻の分析(その2) —

I. J. ピューラをめぐる記述課題の諸断面 (1) (福田覚)

— 敬虔主義の街、霊感的な詩作、崇高概念 —

Die Universität in dürftiger Zeit (Sho Saito)

第13号 (2013年5月)

ドームによるケンペル『日本誌』の編集について(3) (中直一)

— 第1巻の分析(その3) —

医学者 E.A.ニコライの「情念」と哲学者ズルツァーの「感情」 (福田覚)

— ドイツ啓蒙主義詩学史の学際的理解の試み —

18世紀の文学外的フィクション (斉藤渉)

— パラテキストの分析 —

第14号 (2017年5月)

ユング＝シュティリングにおける信仰と創作 (長谷川健一)

— 『ヨリンゲルとヨリンデの話』を手がかりに —

徳の教育 (廣川智貴)

— Ch・F・ゲラート『スウェーデンの G 伯爵夫人の生涯』 —

18世紀の自死をめぐる言説の再検討 I (吉田耕太郎)

J.E.シュレーゲル、ゴットシェートが接した「ソフォクレス」 (福田覚)

— 受容の2つの局面から考える詩学史の物語論的再解釈 —

第15号 (2018年5月)

汎愛派の知られざる教育者J・K・ヴェツェル (廣川智貴)

嬰兒殺しをめぐる言説の再検討 I 論争の背景 (吉田耕太郎)

レッシング『ミス・サラ・サンプソン』における父の規範と娘の葛藤 (福田覚)

— 両価的感情の物語表現として見た悲劇の構図 —

第16号 (2019年5月)

道徳週誌『画家談論』における想像と模倣 (福田覚)

— スイス派初期の作用詩学について —

ユング＝シュティリングの敬虔主義批判 (長谷川健一)

— エルバーフェルト体験と『ヘンリヒ・シュティリングの家庭生活』 —

アルプスを見る詩人 (廣川智貴)

— ヘルダリーンとエーベル —

18世紀ドイツの旅行記・地理誌とその受容について (吉田耕太郎)

— 日本の盲人についての情報とその流布を例に —

第17号 (2020年7月)

文学論争におけるクロープシュトックの評価 (福田覚)

— 文学論争の再考にむけて —

ヴェツェルとウィーン (廣川智貴)

— 『喜劇役者たち』を中心に —

神童と天才 (吉田耕太郎)

— 18世紀における心的能力をめぐる議論をたどる —

第18号 (2021年5月)

文学論争以前のミルトンをめぐる遣り取り (福田覚)

— 文学論争の再考にむけて(2) —

ユング＝シュティリングの「熱狂」評価 (長谷川健一)

— 『テーオバルトあるいは熱狂者たち』(1784/85)を手がかりに —

ヴェツェルの教育論と『ロビンソン・クルーソー』 (廣川智貴)

優しい父 (吉田耕太郎)

— 親子関係から啓蒙を再考する —

第19号 (2022年3月)

『批判的論叢』24号におけるミルトン批評の言説 (福田覚)

— 文学論争の再考にむけて(3) —

対話小説への道 (廣川智貴)

— J・J・エンゲルの理論と実践 —

野生児をめぐる18世紀の緒言説 1 (吉田耕太郎)

— 言説の付置の確認 —

第20号 (2023年7月)

ユング＝シュティリングの「熱狂」評価(承前) (長谷川健一)

— 『テーオバルトあるいは熱狂者たち』(1784/85)におけるテルステーゲン評価を手がかりに —

ミルトンから見て取る虚飾的表現と絵画的表現 (福田覚)

— 文学論争の再考にむけて(4) —

野生児をめぐる18世紀の緒言説 2 (吉田耕太郎)

— 動物と人間の顔 —

第21号 (2024年7月)

カント啓蒙論における歴史的進歩について (八木緑)

— 歴史の中での実践に関する一考察 —

病へ向けられたまなざし (吉田耕太郎)

— 家長の指南書 *Hausvaterliteratur* と病をめぐる情報の分析 —

詩論における虚飾の評価とロンギノスへの視線 (福田覚)

— 文学論争の再考にむけて(5) —

ユング＝シュティリングの『アーゼ＝ナイト』について (長谷川健一)

— もう一つの「ヨセフ物語」 —